

4 技能をバランスよく学習させるための工夫

1 ねらい

英語を聞いたり、話したり、読んだり、書いたりする基礎的な言語活動をバランスよく計画的・系統的に行う。

2 取組概要

(1) 学習過程の工夫

集団や個の実態に応じ、指導の重点を明確にした授業づくり

ア 教科指導の基礎となる学習活動を位置付け、基礎基本の定着を図る。

- ・インプット活動 ・新幹線リーディング（教科書の早読み）
- ・教科書の音読 ・小テスト ・ノート指導 ・予習復習の指導

イ 課題を追求・深化し、学びが広がる活動を展開することで、応用力を向上させる。

- ・英作文 ・スピーチ
- ・インタビューテスト ・スキットの作成
- ・英検対策 ・辞書指導

ウ 言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力を育成する。

- ・スキットの作成 ・スピーチの実施

(2) 学習形態の工夫

個や集団の学習効率を高める授業づくり

ア 個に応じた学習を推進する。

- ・作文指導 ・ALTとのTTによる学習
- ・テスト返却時のアドバイス

イ 集団で高め合う学習として、集団思考の場面を効果的に取り入れる。

- ・ピアチューター（英語が得意な生徒が友達のサポートをする）
- ・モデリング ・グループ学習 ・ペア学習

(3) 評価を生かした指導の工夫改善

指導と評価の一体化を図る。

ア 指導の改善につながる評価を工夫する。

- ・本日のメニュー（目標）の提示

イ 学習の改善につながる評価を工夫する。

- ・自己評価カード ・ポイント制の実施
- ・生徒による教師の授業評価（アンケート）

(4) 学習意欲の向上

分かりやすい・意欲を持たせる授業づくり

ア 学習に対して意欲を持たせる授業を展開する。

- ・授業規律 ・授業の雰囲気づくり
- ・自学自習のための予習・復習

(5) 小中学校の連携

授業実践や指導方法など具体的な連携

ア 中学校区を単位として、授業の交流を行う。

- ・授業参観 ・出前授業（外国語活動への支援）
- ・情報交換会議



スキットの発表

3 成果 等

授業に対して積極的に取り組む生徒が増えた。また、英作文、スピーチ、スキットの指導を通して、生徒が主体的に学ぼうとする姿が見られた。英作文の作成においては、文構造を意識しながら英文を書こうとする生徒が増えた。

4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力が育成できるような授業を展開していきたい。

主体的に学習に取り組む態度の育成

1 ねらい

基礎的な知識、技能を習得させることで、主体的に学習に取り組めるようにする。

2 取組概要

(1) パフォーマンステストの実施

積極的に実験に取り組ませるためには、一人一人が実験器具を正しく扱えなければならない。そこで、パフォーマンステストを実施し、合格できなかった生徒には個別指導を行うことで、全員が実験器具を正しく扱えるようにした。

- 1年 ・顕微鏡の使い方 (表1)
 ・ガスバーナーの使い方
 ・密度の測定
 (電子天秤、メスシリンダーの使い方)
- 2年 ・抵抗の大きさを求める
 (回路をつくる、電流計・
 電圧計の使い方)
- 3年 ・記録タイマーの使い方
 (記録テープをグラフにする)

名前			
①対物レンズを低倍率にしているか。			
②反射鏡を調節し、視野を明るくできたか。			
③プレパラートをステージにのせ、横から見ながら対物レンズとプレパラートをできるだけ近づけることができたか。			
④縦管束を視野の中央にくるようにプレパラートを動かし、高倍率に変えてピントを合わせることができたか。			
時間			
評価 3分以内…A 5分以内…B ×があった…再テスト			

表1 顕微鏡の使い方チェック表

(2) 少人数 (2～3人) での実験観察

少人数で実験を行うことで、全員が器具を操作し、一人一人の観察時間も増える。それによって生徒が主体的に実験に取り組むようになる。

(3) ICTの活用

「理科ねっとわーく」にある写真や動画、教科書の図などをスクリーンに拡大して見せながら説明をすることで、生徒は理解をより深めることができる。

3 成果等

- 実験器具の使い方がしっかり身に付いたことで、どの生徒も意欲的に実験に取り組めるようになった。
- 視覚教材を用いることで生徒の興味関心が高まり、集中して話を聞くことができるようになった。